# 共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター（SSVC）

**第３４号**（年２回発行）

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞
狭山市狭山台1－21
狭山元気プラザ内Ａ棟３Ｆ
☎／Fax　04-2927-1395
Ｅ－mail：sayama-ssvc@bd.wakwak.com
電話受付：月・水・金曜日午後１時～4時迄

## 未来へはばたく「さやまっ子」の健やかな成長のために・・・

**狭山市教育委員会　生涯学習部長　内藤　光重**

日頃より、狭山市学校支援ボランティアセンターの皆様には、市内小・中学校への学習支援につきまして、多大なるご貢献をいただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、現代の社会は、子供たちを取り巻く環境が大きく変化し、別室登校や外国籍の児童生徒の人数の増加など、学校における課題も複雑化・多様化しております。そのような状況の中、ＳＳＶＣの皆様におかれましては、子供たちに寄り添い、子供たちのためにできることを拡げていけるよう、研修会や座談会を開催するなど、研鑽を重ねられておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

また、コロナ禍では、家庭学習ノートの確認や小テストの丸付けなど、非対面型の支援が大半でありましたが、今年度に入り、徐々に対面での支援を要望する学校が増えていると伺い、大変嬉しく思うと同時に、学力の向上はもとより、子供たちが異世代のボランティアの方々と接することは、子供たちにとって大切な心の糧となるものであり、after コロナという状況だからこそ、

ＳＳＶＣの皆様方をはじめとする地域の力の重要さを改めて感じているところであります。

教育委員会といたしましても、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」の推進に向けて積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、郷土狭山を愛する心を持って、自己の未来を切り拓いていくことのできる「さやまっ子」の健やかな成長に、皆様方の一層のご支援をお願い申し上げます。

## 地域学校協働活動（ＳＣＳＣ）への取組みに向けて

**SSVC 事務局長　山田　恵一**

コミュニティスクール化に向けて、実務を展開するために「地域学校協働活動」が動き始めました。これまでの「学校応援団」の活動を進化させる形で、ＳＳＶＣの活動もその一翼を担う位置付けとなります。

ＳＳＶＣは、学校応援団（学校支援地域本部）の活動が始まる前に設立され「学校の依頼に応えて支援活動を行う」ことを行政から委託されており、当面は従来通りにＳＳＶＣの各校担当コーディネーター（ＣＮ）が直接、学校と打合せを行って支援活動を進めることになっています。以前から地域子ども教室やＰＴＡと連携した活動も行っていますが、狭山市全域をカバーするＳＳＶＣの人材バンクが、役に立つ場面があると予想しています。

その一方で、ＳＳＶＣの活動の中核を担う人材を育成するために、2016 年からさやま市民大学に「さやまっ子の学習支援員養成講座」を開設しておりますが、来年度は市民大学が休校となりますので、自主講座として継続開催すべく準備を進めています。

教育委員会のバックアップを頂いて、学校支援に関わる全体像を理解して頂ける内容に構成していますので、これから支援に参加しようと考えている方だけでなく、既に参加している方がこれまでの知見を整理することも含めて、多くの方に受講して頂きたいと願っています。

## 教育委員会より新たな学習支援事業の要請を受ける ⑤

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～　前 SSVC センター長　諸井 寿夫

ステアリングを握っている時、着信音が鳴ると重要なメッセージであることを実感しています。
この時も車のナビ画面には「行政より」と表示され、電話の向こうは、教育委員会からでした。「相談したいことが・・・」とそれでは「市庁舎に伺います」と「いえ、お願い事があるので、こちらから伺います」とご丁寧な電話を頂戴する。そして、SSVC 事務所に教育長もご一緒に来訪いただきましたが、その内容は、『さやまっ子・茶レンジスクール』とのこと、呼称「中チャレ」と言いますが、市長も大変関心ある事業とのことで SSVC への協力の要請でした。本事業は、学校の学習指導を補完するとともに、家庭学習の励行を促すため、学校の授業以外で生徒が学習する機会を設け、学習活動を支援することにより、確かな学力の定着を図ることを目的とするものです。しかし課題は、従来のＳＳＶＣ事業は、授業中の支援が中心で、無償ボランティアですが、本事業（週末支援）は、有償であることにより、ＳＳＶＣとして、扱いが異なる二つの事業の両立を図るための考え方、対応の検討が必要でした。「自宅では勉強に集中できない」「分からないことが聞けずに困っている」などの生徒に対して、各校の CN、支援員が大変協力的で支援体制が意外と順調にスタートしました。この「中チャレ」の素晴らしいところは、先生、保護者、塾講師よりもその生徒の習熟度、性格などがわかる支援員がいることで、同じ教科書を基に教室内で一緒に授業を受け、その支援員が週末に時間を掛けて支援することです。しかし残念ながらこの事業は、コロナ禍のため中止することになりました。

（中チャレの応援に市長も・・・）

最近家庭の事情により塾に行けない生徒の代替手段としてニーズも高く、現にある中学校では、とても効果があったとの事例もありました。
また「小チャレ」と称して、小学４年生の算数の支援要請を受けましたが帰宅時の自宅までのガードも必要とのことでこの支援は、SSVC として断念しました。
尚この茶レンジスクールは、すばらしいコンセプトですので、運営の見直しをして再開を期待しています。（次号予定　SSVC の人材をどのようにして集めているか ⑥）

## 2023 年度教科別支援者研修・懇談会

人材バンクグループＧＬ　有田　茂

例年行われています教科別支援者研修・懇談会を 10 月 26 日 14：00～16：00　狭山市立中央公民館第５学習室にて開催しました。今年度は「理科」で、教育センター所長利根川様をお招きして、「狭山市の理科学習指導について」と題して講演をして頂き、その後懇談会を行いました。参加者は 20 名でした。
内容は、理科教育の変遷を昭和 22 年より現在に至るまでの十年ごとに変わってきた学習指導要領の内容について説明して頂き、現在の「主体的・対話的で深い学び」に至った経緯を分かり易く教えて頂きました。その新しい指針を達成するための教育方法、「何が出来るようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」の手法、そして義務教育９年間の集大成は「エネルギーと物質」「自然環境の保全と科学技術の利用」である事を教えて頂きました。加えて我々が対面で支援を行う際、遅れている生徒をターゲットにしがちでしたが、すでに分かっていて退屈そうな生徒に、より深い認識が持てるような題材を見つけて、考えさせるような支援が出来れば、「理科」をもっと好きになってもらえるのではないかと気づかされました。これらの内容は「理科」に限らず、すべての教科についても言えることなので応用したいと思います。また懇談会では、ＳＳＶＣのメンバーから多くの意見や考えを利根川所長と交換する事ができ、参加者全員で共有することで、より深い理解が出来たと思います。

# 校長先生 こんにちは ３３

## 絶対的な安心感　ＳＳＶＣさんの支援

狭山市立山王中学校校長　土屋　孝夫

日頃より本市の教育活動に対するご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

私の勤務する山王中学校は、昭和５２年４月に市内で５校目の中学校として開校し、令和８年度には開校５０年目を迎えることになります。各学年３クラス、特別支援学級２クラス、生徒数３２４名の中規模校です。実は私が初めて教職についたのが本校で、昭和６１年のことです。当時は各学年１１学級の計３３学級、生徒数１４００名ほどのマンモス校でした。担当した学年だけでも４００～５００名の生徒がいましたので、他学年はもとより自分の学年ですら名前も顔もわからない生徒がたくさんいました。当時はいわゆるツッパリ文化？が全国的に大爆発した時期であり、校内暴力をはじめとする非行問題が大きな社会問題になっていましたが、本校もご多分に漏れずという状態でした。

あれから約４０年。当時と比べると隔世の感があり、学校全体の様子はお陰様でとても落ち着いています（思春期の子どもですから個々レベルでは様々な課題等はありますが）。

このような変化の背景には、幾つもの要因があろうかと思いますが、その一つにＳＳＶＣさんをはじめとする、地域の方々の学校教育への参画があるのではないか、と考えています。地域の方が子どもたちの健やかな成長を願い、ボランティア精神で関わってくださる姿は、子どもたちの心に漢方のようにゆっくりと働きかけているのではないでしょうか。特に生徒たちは、祖父母（失礼！）に感じるような穏やかな包容力を皆様方に感じていると思いますし、管理職の立場から見れば絶対的な安心感があります。さらに、若い教員が増えている中、皆様との連携を通して教員のスキルアップや負担軽減にもつながっています。今後もどうぞお力添えを賜りますようお願いいたします。

## 新狭山小　？年振りかの家庭科支援

新狭山小学校　コーディネータ　川田　みな子

８月末に教頭先生からメールで、９月７日から始まる家庭科のミシン学習への支援依頼がありました。期間は９月７日から１０月１０日までの期間で、６年生は木曜日と金曜日で一クラス２時間ずつ。５年生は主に月曜日と火曜日で、運動会練習が始まるために時には１時間ずつということもありました。さて、困った。実は現在新小の学習支援者は高齢化のためにほとんど活動らしい活動はできていません。唯一続いている２年生の掛け算九九支援も、もっぱら人材バンクを利用したり知人に頼み込んだりなどして何とか人数を確保（支援者に失礼な言い方ですが）している状況です。私の住む西武団地では、支援者の皆さんがお元気だったころは家庭科支援なども盛んになさっていたということですが、私には経験がありません。そこで、とりあえず人材バンクを開き（開き方を忘れてしまって山田さんや内野さんにご足労をおかけしました）、主に私の所属のＣブロックの方々で新小に近そうな方などピックアップしてメールで呼びかけることに。藤森さん、庄司さんにもお助けいただき、さらに知人にも声をかけるなどして、どうにか１回の授業に２人ぐらいずつの体制がとれました。よくしたもので、子供たちはグループの仲間同士お互いに助け合ったり教えあったりして、ほぼ全員の子供たちが時間内に目標に達することができていました。作業が遅れたり間違えてしまった友達につきっきりで教えたり、時には手を貸したりなど、心温まる光景があちこちで見られ、暗いニュースばかり流れる昨今ですが、世の中まだまだ捨てたものではないと、心が明るくなりました。

## 心温まる話

堀兼小学校コーディネータ　庄司　一之

とてもうれしい心温まる話を一つ。いつも支援されているＡさんの経験談です。学校近くで自転車の女子高生に会ってお話したら、お互い同じ堀小の卒業生と分かった。女の子は当時毎週支援していたＡさんを覚えていたようで「SSVC さんには長くお世話になりました」と懐かしそうにお礼を言ったとのことです。Ａさんはコロナ期間もあり多分８年位前のことだろうと言われていましたが３．４年担当していた頃毎週の教室やサマースクールでこの児童と接触して何かと力になってあげていたので心に残ったのでしょう。

コロナで SSVC がピタリと教室へ入らなくなった時、子供たちが「何故なの?」と寂しがったり、帰りに「また来週も来てね」と声かけてくれたり堀小の児童は SSVC の人たちをとりわけ身近に感じていることはとてもうれしいことです。これも皆様の一人一人、一日一日の積み重ねから生まれたのだと CN としても心温まる話でした。

## 2023 年度現在までの支援実績

情報集約グループ　角田 ふで子

今年度は、新型コロナの分類が 5 類に移行し、対面での支援が増えてきました。 1 学期は、9 割方、これまでと同じく家庭学習ノートやドリルなどの確認や丸付けのような非対面型の支援でしたが、夏休みおよび 2 学期になると対面型の支援が増えてきました。

夏休みは、すべての学校で、対面で夏休みの課題を一緒に考えました。2 学期は教室に入っての授業支援依頼が増え、1 年生の足し算引き算や 2 年生の九九暗唱、数学、家庭科のミシン、別室登校生徒の学習支援、家庭科部の手芸指導などを行いました。

| | １学期 | 夏休み | ２学期 | ３学期 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2021年度 | 1239時間<br>小学校３校<br>中学校３校 | 70時間<br>小学校１校<br>中学校１校 | 1231時間<br>小学校５校<br>中学校３校 | 592時間<br>小学校２校<br>中学校３校 | 3132時間<br>小学校６校<br>中学校４校 |
| 2022年度 | 1350時間<br>小学校８校<br>中学校６校 | 183時間<br>小学校１校<br>中学校２校 | 2261時間<br>小学校９校<br>中学校７校 | 1555時間<br>小学校１０校<br>中学校７校 | 5349時間<br>小学校１２校<br>中学校７校 |
| 2023年度 | 1774時間<br>小学校８校<br>中学校７校 | 296時間<br>小学校１校<br>中学校３校 | 2323時間<br>小学校７校<br>中学校６校 | | |

2023 年 2 学期集計中

## 2024 年度学習支援員養成講座予定

人材バンクグループ　講座担当　石井　宏晶

2023 年度の講座(全 14 回)は、昨年 10 月 16 日(月)に修了式を行い、受講生全員が無事に修了することができました。

学習支援員養成講座は、さやま市民大学の協賛講座として、受講生の方が、学習の現場に学習支援員として自信を持って臨んでいただける事を目的としてやってきました。

その目的のために、狭山市教育センターの先生や SSVC の経験者を講師として、現在の学習内容・支援の実際、子供の心理、法的な事柄、ボランティアとしての心がけなどをカリキュラムに組んで実施してきました。

結果、多くの受講者が SSVC のボランティアとして登録され、実際の学習支援活動に参加して活躍されております。

来年度は、さやま市民大学が見直しのために休校となります。従いまして、協賛講座としての開講はできなくなりますが、SSVC としては学習支援員を養成するという目的のために、自主講座として開講する予定で進めております。新たな支援者養成とともに、学習支援員登録者が改めて学びなおすことができる場として活用することを考えております。

詳細は決まり次第お知らせします。その際は、多くの人の参加を期待します。

**編集後記：** 最近の学習内容の変化は、「何を　教える　か」から「何が　できるようになる　か」と言われています。知識を教えるのではなく、課題・問題解決のために、何をしなければならないか、そのためには、何ができるようになればいいかと気づき、それができるようになることを模索することかと考えます。そこでは学習支援者も、一緒になって考えることが求められます。SSVC の広報紙「共に学ぶ」の実践がこれから求められます。SSVC の活動に参加することで、一緒に生涯にわたって学習していきませんか。(Y.K)

SSVC ホームページです